

議会だより

定例会

平成29年度第4回定例会は12月7日に招集され、提出された案件を審議し閉会いたしました。

委員会報告

総務産業常任委員会

■ 調査期日 9月4日(月)

■ 調査事項

① 建設工事の施工状況について

② 公営住宅長寿命化計画について

■ 調査結果

①② 指摘事項なし

■ 調査期日 10月18日(水)

■ 調査事項

財政状況について

■ 調査結果

指摘事項なし

■ 調査期日 11月9日(木)

■ 調査事項

① 碧水地域支え合いセンターの運営状況について

② 国民健康保険について
■ 調査結果

① 地域の高齢福祉施設の核として、今後も頑張つて運営して頂きたい。

② 国民健康保険の運営主体は平成30年4月から北海道に移行する。今後、町民周知の徹底を図り円滑に移行するよう努められたい。

承認

○ 専決処分の承認を求めることについて〔平成29年度北竜町一般会計補正予算(第4号)について〕

・ 既定予算額に2,161千円を追加し、総額を4,101,367千円とする。

推薦

○ 人権擁護委員の候補者の推薦について

・ 瀬戸 照代 氏 (新任)

原案可決

○ 平成29年度北竜町一般会計補正予算(第5号)について

・ 既定予算額に1,05,238千円を追加し、総額を4,206,605千円とする。

○ 平成29年度北竜町国民健康保険特別会計補正予算(第3号)について

・ 既定予算額に5,024千円を追加し、総額を448,588千円とする。

○ 平成29年度北竜町後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)について

・ 既定予算額から470千円を減額し、総額を33,411千円とする。

○ 平成29年度北竜町介護保険特別会計補正予算(第2号)について

・ 既定予算額に1,249千円を追加し、総額を265,733千円とする。

○ 平成29年度北竜町特別養護老人ホーム事業特別会計補正予算(第2号)について

・ 既定予算額に329千円を追加し、総額を432,276千円とする。

○ 平成29年度北竜町農業集落排水事業及び個別排水処理事業特別会計補正予算(第2号)について

・ 既定予算額に2,403千円を追加し、総額を123,315千円とする。

意見書の提出について

次の意見書を可決し、関係省庁に送付しました。

○ 障害児者の生きる基盤となる「暮らしの場」の早急な整備を求める意見書

○ 29年度以降「産地交付金」の満額交付などを求める要望意見書

一般質問

6名の議員から7件の一般質問があり、内容については2月号に掲載予定です。





議事進行を行う岩倉あずさ議長



小学生議員による一般質問

子ども議会 開催

次代を担う子ども達が議会を体験し、「まちづくり」への関心を持ってもらうことを目的に12月7日子ども議会が開催されました。

町理事者と8人の議員は答弁者席に、真竜小学校6年生の生徒10人は議員席に座り、貴重な体験をしました。

小学生議員はそれぞれ小学生らしい率直な質問や意見を繰り出しました。

■小学生議員の一般質問

1. ひまわりの里について
2. 町長の業務内容について
3. ふるさと納税について
4. 学校屋外にある木造の物置について
5. 北竜町のスキー場について
6. Aコープの跡地について
7. 北竜町の行事について
8. 建設中のお店について
9. 「芸術鑑賞の旅」について
10. 議員さんの仕事の内容について



■佐々木 康宏 氏

北海道社会貢献賞(自治功労賞)受賞

北竜町議会議長 佐々木康宏氏が11月20日に北海道社会貢献賞(自治功労賞)を受賞されました。

佐々木議長は昭和62年の初当選以来、現在7期目を務められ、平成19年からは3期連続で議長として地方自治の振興と効率的な議会運営に尽力されています。

■小松 忠彦 氏

地方自治法施行70周年記念(監査事務功労者)総務大臣表彰受賞

前北竜町代表監査委員 小松 忠彦氏が11月1日に地方自治法施行70周年記念(監査事務功労者)総務大臣表彰を受賞されました。

小松氏は多年に渡り監査事務に精励し、地方自治の発展に貢献されたことにより、受賞に至りました。

7年連続での豊作となった。もはやこれが平年作と言っても過言ではないのではないか。北海道の水稻栽培技術がこの10年前後で大きく向上した証である。平成30年から国による生産調整が終わり、生産者、農業団体自ら需給バランスをとった生産をすることになる。初めての取り組みで、うまくこのことが機能するか不安が残るところである。日本の農政もめまぐるしく変わり、昔のような家族農業でいつまで続けられるのだろうか。

毛利元就の3本の矢の教えは有名な話である。1本の矢では簡単に折れるが、3本まとめると容易に折れない。



兄弟3人結束して毛利家を守ってほしいと告げ、息子たちは必ずこの教えに従うことを誓ったという話である。今、北竜町の農家が激減する中で地域を守る担い手も3本の矢、5本の矢の束にならなければ北竜町の農地を守りきる事が出来ないのではないだろうか…。

(小松 正美)